

# 栃木県生協連・2011年度12月定例報告

2011年12月16日  
栃木県連 専務 鎌柄

## (1) 11月活動日誌

日付	曜日	日誌
11月1日	火	消費者庁・地方消費者グループフォーラム第1回実行委員会
11月2日	水	ぽ・ぽ・ら主催企業とNPO等との意見交換会
11月8日	火	県連福祉ネットワーク世話人会
11月9日	水	農産物マーケティング協会懇談会、栃木労生協理事会
11月10日	木	中央地連大規模災害対策協議会
11月11日	金	中央地連大規模災害対策協議会、下野新聞大賞審査会・表彰式 宇都宮市消費生活展説明会
11月14日	月	県連常務理事会、労福協セミナー
11月15日	火	ふれあいお茶会、福祉センター理事会
11月16日	水	益子町消費者行政担当課訪問、行政生協関係者連絡会
11月17日	木	税務所年末調整説明会
11月18日	金	中央地連事務局会議
11月19日	土	白河仮設へのボランティア
11月21日	月	農産物マーケティング協会理事会、総会
11月22日	火	食の安全ネット地域フォーラム(高根沢)、県連災害対策交流会
11月24日	木	食の安全ネット地域フォーラム(宇都宮)、消費者ネット全体会
11月25日	金	協同組合まつり実務担当者会議、宇都宮市食品安全連絡会、職域団体連絡会
11月26日	土	宇都宮市消費生活展
11月28日	月	国際協同組合年ワーキンググループ会議
11月29日	火	中央地連運営委員会、広報紙初冬号発送
11月30日	水	会員生協経営検討委員会

※東日本大震災を受けて、まとめは概況とします。

## (2) 11月活動の概況

### (宇都宮市内と福島県で避難されている方々のふれあいお茶会)

11月15日ふれあいコープの特養みどり、福島県から宇都宮市内に避難されている方々に対する第3回目の「ふれあいお茶会」が、9、10月に続いて開催された。今回は12人の方とお子さんが参加され、参加人数も多く若い方の参加もあり、交流の輪が広がっている。今後も県連と3会員、NPOウィズの主催で継続が予定されている。

11月19日県連と3会員の7名、YMCAの方と計8名で、白河市の仮設住宅の集会所で「Vカフェ」(とちぎVネットの継続的な働きかけがされて来ている。)の開催に協力した。参加費大人は100円だが、強い雨の中でも大人24名、子ども22名の参加があった。YMCAの用意されたレギュラーコーヒーとロールケーキやジュースなどが提供された。11時から15時半頃まで、話や子供の声が途切れることは無かった。被災された方々から、少しずつ状況についてお話を伺うこともできた。

#### (栃木県職域団体連絡会、災害対策交流会等)

11月25日栃木県職域団体連絡会の発足式が行われた。石油指定店や住宅事業を連帯して行う職域5生協に加えて、以前職域生協の法人形態を取っていた警友会(互助会)や、富士重工生協の解散後事業を継承するスバルリビングサービスが加わって、県連運営の前の石油部会とは別に、自主的な事業連帯の枠組みとして発足した。2012年からは、職域4生協と2職域団体として活動を進めていくことになる。

22日第2回災害対策交流会を開催した。福島県から栃木県庁に派遣されている福島県庁の職員の方に栃木県内に避難されている方々の状況報告をいただいた。とちぎVネットなど参加団体からは、この間の震災への対応を中心に報告と課題など交流がされた。



(報告をいただいた福島県庁県外避難者支援チームの佐藤主幹と宍戸主査)

#### (食の安全課題の関連)

11月22日、24日とちぎ食の安全ネットワーク主催の地域フォーラムの2回目が、高根沢町の農村環境改善センターと宇都宮市のとちぎアグリプラザで開催された。それぞれ、高根沢では約 名の参加があり 名の保育を行った。宇都宮では、約 名の参加があり 名の保育を行った。

10月に続いて茨城大学理学部の田内広教授から、「放射性物質と私たちの健康とくらし」について分かりやすくお話をいただいた。食の安全ネットワークとして、10月に続いて3地域生協の理事さんで地区分担を決め、細部にわたって準備が進められた。当日の運営も大変スムーズに進んだ。

まとめも会場ごとにアンケートを基にしたまとめと保育のまとめ、更にそれら3会場の内容を地域フォーラム全体のまとめとして、大変丁寧に集約いただいた。

#### (消費者課題の関連)

10月～県内11町長への訪問活動がスタートし、野木町、市貝町、芳賀町、上三川町、那須町、塩谷町、壬生町、那珂川町、高根沢町を訪問することができた。

11月16日益子町の消費者行政担当課を訪問し、10/11町の訪問を終えた。

1月27日消費者シンポジウムに向けてまとめを行っていく予定。

昨年訪問した県内14市にはアンケートの集約も引き続き行った。

11月26日二荒山前のバンバ広場で行われた宇都宮市消費生活展へネットワークとして初めて出展した。約2千以上の消費者トラブルアンケートの集約結果とまとめを、4枚のパネルとして3人の担当幹事が中心となり作成され、当日展示した。実際の消費者トラブルアンケートや栃木県在住消費生活アドバイザー連絡会が作成された、クイズも来場者に取り組みてもらい、約70名の方々に話を聞いてもらうことができた。

**(国際協同組合年)**

**1. 国際協同組合年栃木県実行委員会の基の協同組合まつり実務担当者会議**

11月25日国際協同組合年栃木県実行委員の基「協同組合まつり実務担当者会議」第1回目が開催された。協同組合まつりの会場と日程を想定しながら、概要イメージや予算と費用按分について、意見交換がされた。出された意見を基に、12月21日に第2回目を開催することが確認された。

**2. 県連の基の国際協同組合年・ワーキングチーム会**

11月28日国際協同組合年・ワーキングチーム会の4回目を開催した。参加の栃木県職員生協、よつ葉生協の理念・歴史・現在の取り組みの報告がされた。また、書籍「協同組合の役割と未来」第2章のJAの著者の部分を、とちぎコープの関口担当からレポートがされた。

宇都宮大学農学部の神代先生(前回からご参加)からの助言を受け意見交換がされた。次回1月は医療生協の報告と、神代先生からの報告を受け意見交換を予定している。

**(3) 12～2月の課題**

1. 12～2月部会・委員会活動の推進
2. 12～2月ネットワーク活動(食の安全ネット全体会、消費者ネット全体会)推進
3. 12月17日国際協同組合年「記念講演会」の成功
4. 1月27日「消費者シンポジウム」の準備と成功
5. 栃木県生協連内の国際協同組合年ワーキングチームの活動推進
6. 震災被災地・被災者への支援・ボランティア派遣

2011年12月15日

12月15日県連理事会資料

## EAST LOOPへのご協力をお願い

栃木県生協連 鎌柄

### (1) 提案の趣旨

おおさかパルコープを通して、竹内会長（栃木県生協連）あてにハートブローチ普及の協力の依頼があり、県連常務理事会でも報告し可能な会員への協力要請をさせていただきと致しました。

おおさかパルコープと大阪よどがわ市民生協、ならコープでは、岩手県の遠野市にボランティアセンターを置いて、継続して役職員のボランティアを派遣して来られました。遠野のまごころネット（遠野被災地支援ボランティアネットワーク）との連携で活動されています。

### (2) ハートブローチの取組の意味

岩手県の沿岸被災地の仮設への避難者の方々が、自宅のできる手仕事として手編みのハートブローチを作成されています。慣れてこられると多い方で、月200ヶ作られると約8万円の収入になるということです。1ヶ当り400円が作製者に、(株)福市から支払われます。

被災された方々が思いを紡いで、一つの作品として仕上げられることで、社会とのつながり仕事興しの意味があり、協力（購入）者にとっては被災者支援の意味があります。

### (3) ハートブローチ普及組織としての株式会社福市

フェアトレードに取り組む株式会社福市が、岩手県の被災者の方々に提案し具体化され、現在では作成の登録者が増えています。

### (4) ハートブローチの普及の流れ

被災者の方々の中で登録者約100～150名（(株)福市が原材料を提供）

↓

(株)福市が（1ヶ400円で）買い取り、流通へ

↓

デパート等で販売がされています。

### (5) 仕入先と仕入れ条件等（詳しくは別紙を参照ください）

- ・(株)福市
- ・売価（840円）の8掛けで仕入れられます。
- ・ロットは5万円以上で約60ヶ以上です。